



王国は侵略国との戦いに敗れその支配下に置かれることとなった

王国民の心の支えとなっていた神官エイリスに目を付けた侵略国は、王国民の結束力を弱めるための政策としてエイリスとゴブリンの婚姻を命じ、1年以内に妊娠、出産することを義務付けた

エイリスがゴブリンと結婚した次の日から改宗政策の一環としてこの夫婦による「日課」が行われるようになった

そのあまりにむごく凌辱的な光景に城下町の人々は戸惑いながらも目を離すことが出来なかった

人々の為に祈り全てを優しく受け止めてくれていた王国の女神は

結婚の翌日にはその豊富な乳を放り出され最も敏感な突起には隷属を示す大きなリングが通されていた

拘束具によって前傾姿勢となった上からゴブリンが騎乗し城下町の真ん中で妻となったエイリスの女性器に男根を挿入したまま腰の動きでエイリスに進行方向を指示する

ひと突きされるたびエイリスの女性器は愛液を石畳の道路にまき散らしそのシミが轍となって今までの道のりを示していた白屋堂々と呼ばれるこの忌々しい日課

# 散歩

エイリスは  
ゴブリンを背中に乗せ  
繋がったまま城下町を  
1周しなければならぬ

それは  
占領された王国国民に  
主従関係を  
分からせるための  
象徴的な政策だった

今まで自分たちが  
信仰心を寄せていた女性が  
惨めにゴブリンの肉棒を  
受け入れるしかない姿は  
分かりやすく人々に  
絶望感を与えた

散歩には  
ゴブリンの身を  
守るために  
衛兵が付けられたが  
この衛兵もまた  
かつて  
エイリスを敬愛した  
王国民であった

この恥辱を少しでも早く  
終わらせてやろうと  
手綱を引いてしまうと  
かえって乳首を刺激し  
エイリスを身悶えさせる  
原因になってしまう

目の前で、かつて憧れた  
王国の象徴である淑女が  
犯されているのを  
止めるどころか  
護衛しなければならぬ状況は  
エイリスを初め  
これら衛兵をも苦しめた



そして公衆の面前で  
ゴブリンは平然と  
エイリスの子宮に  
精液をぶちまけた  
これが、ゴブリンと  
エイリス夫婦にとって  
初めての  
種付け交尾だった



人間よりはるかに高い  
生殖能力を持つ  
ゴブリンの射精  
その量と勢いは凄まじく  
亀頭を押し付けられた  
子宮口は  
噴出する精液によって  
震わされ  
エイリスは王国民に  
見守られながら  
人生初の中出しで  
ポルチオアクメをキめた  
深い絶頂感で、足腰を  
ガク付かせながらも  
エイリスは  
主人であるゴブリンを  
背中から落とさない様に  
踏ん張らなければ  
ならない

ゴブリンは  
溜まっている  
残りの精液も  
エイリスの胎内に  
流し込めるよう  
鈴口で子宮口を  
ぐりぐりと何度か  
なぞった後  
また次の射精に向けて  
エイリスの膣内を  
掻き回し始めた  
羞恥心から  
なるべく早く散歩を  
終わらせようと  
懸命に歩き続けた  
エイリスだったが  
結局この日、人前で  
5発もの中出しを  
決められてしまった

結婚して3カ月もすると  
成熟の早いゴブリンの胎児は  
エイリスの中ですくすくと育ち  
その体はふくよかで  
下品なものに変えられていた





貴族階級を与えられた  
夫婦がすることは  
ただセックスのみ

日課を終え、  
王国民から搾取されて  
建てられた  
夫婦の邸宅に帰れば  
今度は二人だけの  
愛の儀式が始まる

んほま♡

おほま♡

ほま♡  
ほま♡

この日ゴブリンは  
エイリスに新しい  
性行為の作法を  
覚えこませていた

普段は上から  
エイリスを凌辱する  
だけだったが

この日はいきり立った  
男根を見せつけるように  
仰向けになり  
ヒクつかせて  
エイリスに合図をした

んおま♡

びん♡

ん♡

おほま♡

ん♡  
ん♡

エイリスはそれを悟り  
自ら跨って  
自身の手首ほどの太さもあるう  
ゴブリンの男性器を  
愛液たっぶりの肉壺で啜え込む

さながらデイルドで  
自慰をするかのように  
ゴブリンの男根を  
自分の一番気持ちいいポイントに  
擦り付けようと  
△△△と腰を動かすエイリス

初めのうちは  
膣の浅い部分を  
ゴブリンの  
高いカリ首が出入りするよう  
小刻みに腰を動かし





慣れてきたら  
教え込まされた  
『服従の姿勢』で  
一気に肉棒を自らの  
膣内に叩き込む

ゴブリンによって  
散々耕されてきた最奥は  
簡単にエイリスを  
絶頂へと導き  
その度に  
だらしなく  
脂の乗り切った体は  
ブルンブルンと震えた



上の口からは  
甘い息と深い絶頂による  
うめき声を、  
下の口からは  
愛液と潮をベット中に  
まき散らしながら  
ひと際深い絶頂を迎える  
エイリス

服従の姿勢で  
ペニスを咥え込んだまま  
動かなくなつた  
エイリスを見かね  
ゴブリンは無理矢理  
体制を変えさせた

ギッ♡

腰をしつかりと抑え込まれ  
膣内をペニスで満たされる  
正常位

騎乗位では無意識に  
避けていたポイントも  
逃げ場のない  
この体勢によって  
無防備にさらされ  
容赦なく突かれてしまう

ゴブリンのこつこつとした  
生殖器がそれらを  
隅々まで刺激し  
エイリスをさらに深い  
絶頂まで押しやる

日中の散歩とは違い  
人目を気にしなくて良い  
エイリスは  
開発されきった  
膣や子宮から与えられる  
快楽に身を任せ派手に  
そして無様に絶頂を  
し続けた

ゴブリンは膣奥に  
自身の遺伝子を流し込んだが  
既に身籠っているエイリスが  
妊娠することは無い

当初の改宗政策によって  
エイリスに命じられたことは  
「妊娠へ出産すること」だった

既に妊娠したエイリスにとって  
これらの性行為は無意味なこと  
命令、義務の範疇を超えていた  
しかし今のエイリスにとって  
そんなことはどうでもよかった



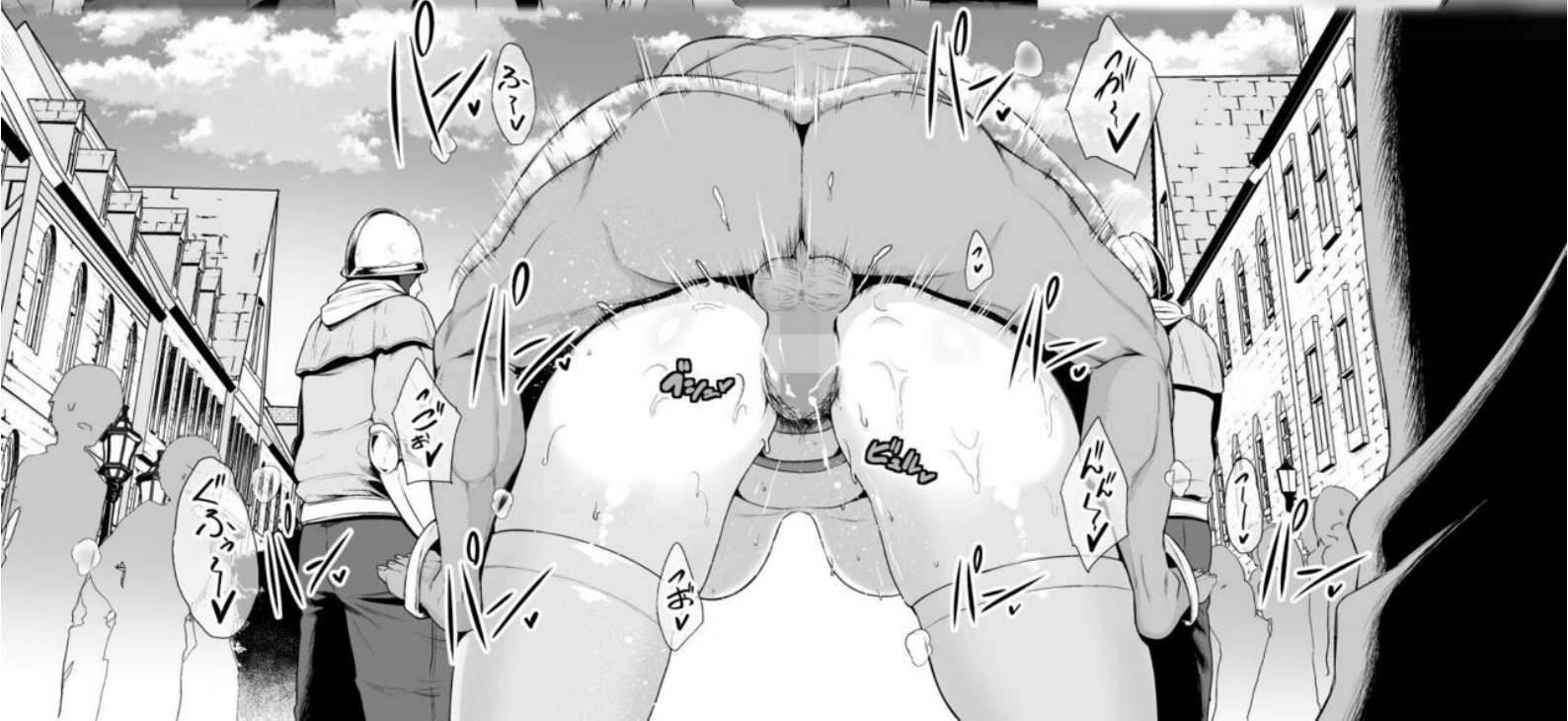
膣内から引き摺り出された  
三人の体液にまみれた肉棒は  
今度はエイリスの  
口にねじ込まれる

イボや亀頭の裏など  
隅々まで舌で舐め直し  
尿道に残った  
精液の残り汁をすすり出す  
先ほどまで自分の膣内を  
えぐり回していた男性器への  
愛情と感謝を示す作法

口の中を満たす男根への想いで  
エイリスは再度絶頂した

唾液まみれになった  
肉棒を見つめ  
エイリスは下を高速で動かす  
これも作法の1つ、  
「おねだり」だ  
これだけ射精してもまだ  
自分を愛せる逞しい男性器で  
もう二度交尾をして欲しいと  
ゴブリンにせがむエイリス  
侵略国に凌辱され  
王国民の為にと身を張った  
慈悲深き聖女エイリスの姿は  
もうどこにも無く  
そこには  
肉欲を満たすためなら  
どんな下品なことも  
してしまふゴブリン専用の  
性処理用妻の姿があった

べろべろべろべろべろべろ

















7-♡

7-♡

7-♡

7-♡

7-♡

7-♡

7-♡

7-♡

7-♡